

かしわざきこども大学事業

小学生「お仕事体験塾」 報告書



日時 平成28年8月21日(日)
時間 10:00~16:00
会場 柏崎市文化会館 アルフォーレ
及び アルフォーレ駐車場

お仕事体験塾実行委員会

1 実施に至る経緯

平成26年、27年夏に（一社）柏崎青年会議所…（以下 JC）が取り組んできた「子どもお仕事体験教室」は、若者が柏崎を離れていく傾向の中で、柏崎にある企業と協力して子どもたちの職業体験をしてもらい、職業観、勤労観を醸成し、地域の活性化につなげる役割を果たした取組であると評価を受けてきた。

参加した子どもからは「柏崎にもこんなお仕事があったんだ。」「大人になったら自分も柏崎で働きたい。」等の感想が、また、見学に来た保護者や教員からも「ぜひ継続してほしい。」という要望があった。ところが主催者である JC のポリシーとして「常に新しい事業に挑戦していく」という考え方があり同所の主催は平成27年度で終了となった。

そこで、平成28年度は、有志による任意教育団体「お仕事体験塾実行委員会」を組織し引き継いでいきたいと考えた。そこでは、教育委員会「かしわざきこども大学」ドリームコース予算を活用し、協力企業の賛同を得ながら昨年度と同規模を想定した「小学生お仕事体験塾」を開催することにした。

2 職業体験必要性の背景

柏崎市において、人口減やそれとかかわる若者の働き手不足が喫緊の課題である中、職業体験を通して柏崎の様々な優れた業種や素敵な先輩と触れあうことによって実感的に仕事について学ぶことが出来る機会が必要と考えた。児童は郷土や事業所に対する理解を深め、地元への愛着や誇りを持ち地域の活性化に繋げてもらいたい。このことが、少子高齢化が急速に進む柏崎にとって若年層の定着につながることを願っている。

また、職業体験には、児童が直接働く人と接することにより、また、実際的な知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことの意義や働くことの意義を理解し、生きることの尊さを実感させることが容易である。さらに、児童が将来の進路を考える態度や意志、意欲などを培うことのできる重要な意味を持っている。

望ましい勤労観、職業観の育成や、自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指す意欲の高揚を図る職業体験は、これからの子どもたちにとって、より一層大切になってきている。

3 お仕事体験塾のねらい

ねらい1：地元の事業所が連携して未来を担う柏崎の子どもたちの人材を育成する役割を果たす。さらに、地域における企業イメージを高める。

ねらい2：実際の職業体験を通じて望ましい勤労観、職業観を身に付け生涯にわたり生きる力を育む。

ねらい3：職業体験で出会った様々な業種や人々との触れあいから柏崎への愛着と誇りを育てる。

4 お仕事体験塾の概要

- (1) 実行委員会組織（巻末参照）
- (2) 実行委員会の開催期間、場所など

- ・期間：平成28年6月～8月（9回実施 会場：南中学校と福祉センター）
- ・時間：午前6時30分～7時20分または午後7時～9時

(3) 実行委員会の内容(計9回開催)

- ・出店企業・事業所の誘致文書発送
- ・当日使用するテント、机、椅子等の物品の借用計画と依頼
- ・教育委員会「かしわざきこども大学」ドリームコース予算の申請
- ・準備や当日の運営ボランティアの依頼
- ・柏崎市、柏崎市教育委員会への後援依頼
- ・児童に参加を呼びかけるチラシの作成、当日の配付資料の作成

(4) 出店事業所への説明会（7月28日、柏崎市立南中学校にて）

- ・賛同いただいた屋内ブース20、屋外ブース10の計30の企業・事業所が参加

(5) 児童への働きかけ

実行委員会が作成したチラシをもとに7月5日に柏崎刈羽小学校長会で説明を行い子どもたちへの内容の周知と参加の働きかけを依頼した。その後、7月中旬に全ての児童にチラシを配布し参加を呼びかけた。（教育委員会の集配棚経由で）

(6) 準備に関して（テント、机、いすについて）

- ・8月19日に大洲コミセン、比角小学校、柏崎市社会福祉協議会よりテント、机、椅子を借用して、柏崎市営陸上競技場に搬入して準備を整えた。
- ・当日、午前6時から陸上競技場から物品をアルフォーレに搬入してテントの設置を行い準備した。

(7) お仕事体験塾の実際

① 期日、時間など

平成28年8月21日（日）
 時間 10:00～16:00
 会場 柏崎市文化会館アルフォーレ
 及び アルフォーレ駐車場

② 参加児童数など

559名の児童が参加した。（引率した保護者、各ブースの企業関係者、ボランティアを含めると今回のイベントは1,000人を超える規模であった。）その内訳の男女別・学年別参加人数は右のグラフの通りである。

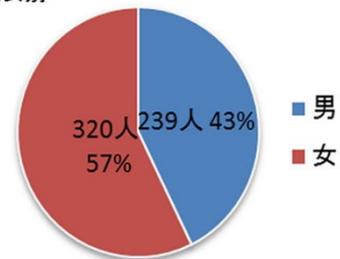
③ 体験回数

児童の各ブースでの体験延べ人数が2,814名であったことから、一人あたりの体験回数の平均は5.03回であった。（実行委員会では、計画段階で体験回数を1人5回以上に設定した。本実践では、予定した5回を達成することができた。）

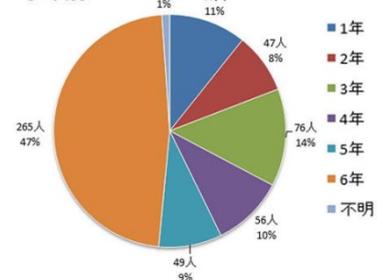
④ 体験の内容

各ブースでは、企業や事業所が工夫した体験活動が行われた。例えば今回No.5の「機

男女別



学年別



械工」で出店いただいた酒井鉄工所様のホームページを見ると「えちゴン キーホルダー(柏崎市 PR キャラクター)を製作し小学生に穴あけ、バリ取り、名前の刻印体験をしてもらいました。」と、事前に小学生にも体験できさらに本格的な仕事体験を工夫していただいた。どのブースでも各企業の特徴を生かした仕事体験となった。

(別紙、報告書簡易版参照)

⑤ 出店30事業所の職業名、体験名、体験人数(表1参照)

*No.1～No.20までは屋内ブース、No.21～No.30は屋外ブース

表1 各ブースの体験名・体験人数

No	職業名	体験名	体験人数	No	職業名	体験名	体験人数
1	喫茶店店員	カフェ体験	32	17	クリエイター (印刷職人)	柏崎大好き名刺作成 体験	81
2	生け花の先生	いけばな体験	30	18	観光案内人	観光案内所の体験	73
3	美容師	美容師体験	54	19	介護士	職場の活動体験 【しかく障がい介助】	34
4	保育士	保育士体験	84	20	看護師	看護師さんになりき り体験	91
5	機械工	金属プレート加工体験	72	屋外ブース			
6	ゆうびんやさ さん	郵便屋さんになってお 手紙を届けよう	114	21	和紙職人	原始の紙作り	83
7	小学校の先生	小学校の先生になろう	115	22	石材職人	石に文字を彫ろう!	50
8	市議会議員	子ども議会	31	23	警備員	巡回警備&護身術& AED使用体験	52
9	ライフセーバ ー	海の安全体験&心肺蘇 生法体験	108	24	消防士	消防士体験	63
10	介護士 【車いす介助】	介護士	80	25	警察官	・指紋採取体験 ・自バイ、パトカー乗車体験	253
11	税務職員	税金業務&税のお話	90	26	自衛隊	ロープワーク、手旗 信号	64
12	信金職員	しんきんさんになって みよう!	59	27	大工職人	切って磨いてコース ター作り	50
13	和菓子職人	上生菓子作り	120	28	電気工事士	高所作業車試乗、自転 車発電	94
14	似顔絵師	似顔絵体験	31	29	防災指導員	バッククッキング&簡易トイ レ作成&防災クイズ	50
15	建築板金職人	板金レリーフ工作体験	313	30	建設スタッ フ	建設機械体験試乗	190
16	室内装飾職人	カフェカーテン作り 床材を利用して花台作り	253	合計			2814名

5 実施後のアンケート結果より

お仕事体験塾の活動に参加した児童にアンケートを行い、279名の有効回答を得た。児童のアンケートの結果から本イベントの成果を分析した。

(1) 地元の職業や人との触れあいは、柏崎で仕事をしたい心情を育てる

グラフは、子どもアンケートの設問「イベントに参加して柏崎で仕事をしたいと思いましたが。」で「思った」「思わない」を選択した人数で表している。

柏崎で将来仕事をしたいと感じている児童は88.6%であった。

地元の柏崎で仕事をしたいと感じている児童が全体で90%近く認められたことは、今回のイベントの成果の1つである。

表は、柏崎で仕事をしたいと答えた理由、柏崎で仕事をしたくないと答えた理由を自由記述で回答した内容を分類したものである。

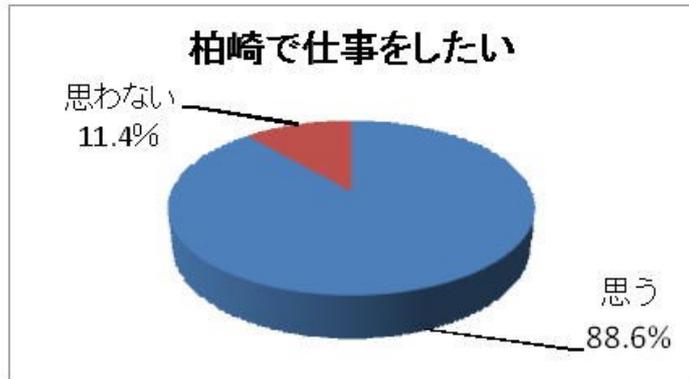


表 柏崎で仕事をしたいと「思う」理由の内訳 N=228

いろいろな仕事があるから	69	30.3%
仕事が好き、大変さが分かった	47	20.6%
柏崎が好き、楽しい	23	10.1%
柏崎で役立ちたい	21	9.2%
目指す仕事があるから	14	6.1%
地元、家に近い	13	5.7%
たくさん教えてもらってよく分かった	9	3.9%

柏崎で仕事をしたいと答えた理由では、「いろいろな仕事がある」「今回の体験で仕事の楽しさ、大変さが分かった。」「柏崎が好き、楽しいから」との回答が多く認められた。

柏崎で仕事をしたい「そう思わない」理由の内訳

他のところで仕事がしたい	18	7.9%
もっといろいろ体験したい	2	0.9%

今回の体験を通して「柏崎には様々な職業があること」「柏崎には目指す仕事があること」を知るきっかけとなった。

さらに、働くことの楽しさや大変さを実感として体験できたことも大きな成果といえる。また、「柏崎で役立ちたい」という記述も見られた。このように郷土を愛する意識にも目が向けられている。少子高齢化が進む柏崎市にとって、イベントで知った様々な業種や人々との触れあいが郷土への愛着に繋がり、将来柏崎で働きたいという意識を高めたことにお仕事体験塾開催の意義がある。

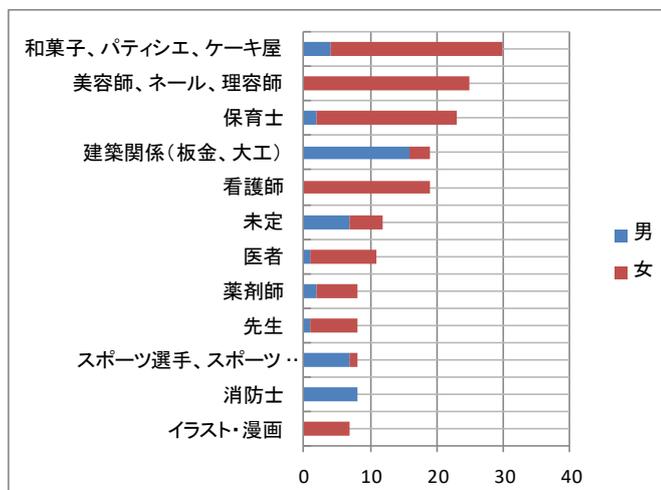
以上の結果から次のような成果が認められたと考える。

- 地元の企業の人々との触れあいを通じて「柏崎には様々な職業があること」「目指す仕事があること」を知るきっかけとなった。
- 職業体験で出会った様々な人々との触れあいは、社会の構成員として共に生きる心を養い、郷土への愛着と誇りとなり柏崎で仕事をしたいと願う意識を高めた。

(2) 地元の事業所が連携して未来を担う柏崎の子どもたちの人材育成に寄与したグラフは、子どもたちが将来やりたい仕事を男女別の合計で表している。

合計の選択で見ると最も多く希望する職業は「お菓子関係」次に「美容関係」「保育士」「建築関係」「看護師」といずれも今回出店していただいた業種を選んでいる。

さらに詳しく見てみると、女子では、最も働きたい職業として「和菓子、パティシエ、ケーキ屋」が26名、「美容師、ネーリスト、理容師」が25名であった。また保育士、看護師、医師に人気があった。



男子では、「建築関係（板金、大工）」が16名と最も多く、消防士8名、スポーツ関係7名であった。男子は、職業選択にばらつきがあることも認められた。

本調査では、具体的な業種以外に「みんなの役に立つ仕事（9名）」「人を笑顔にする仕事（8名）」「人を助ける仕事（6名）」の記述が見られた。どの回答も建設的で、前向きな柏崎の子どもたちの状況が見て取れる。

以上の結果から次のような成果が認められたと考える。

- 仕事体験を通じて、地域の産業やそこに働く人々の素晴らしさを発見することが出来た。そのことが地元企業への親しみや愛着を持つ契機となった。
- 仕事体験は、自分自身に対する自信や可能性の発見と自分の将来について夢を持つ良い機会となった。

(3) 仕事体験は勤労意識を高めることに繋がる

グラフは子どもアンケートの設問「このイベントに参加してどう思いましたか？」を「とても良かった・良かった・あまり良くなかった・良くなかった」の4段階で調査した結果である。

肯定的評価として「とても良かった84.2%」「良かった14.7%」で全体の98.9%に達している。参加した児童の約99%が良い評価をしていることから、イベントに満足感や充実感を強く感じていることが推察できる。

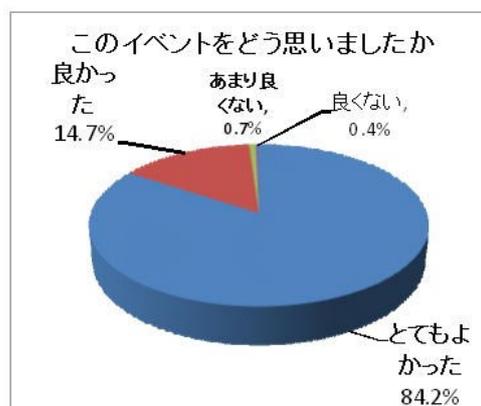


表2は、アンケートの設問「このイベントの感想を教えてください」に記述された言葉を分類して数値化したものである。

表2 このイベントへの感想 (N=256)

記 述 内 容	記述人数	記述全体の割合
楽しかった。おもしろかった。	159	62.1%
いろいろ仕事があった。	39	15.2%
たくさん体験できた。	34	13.3%
将来のためになった。学べた。	27	10.5%
また来年参加したい。	24	9.4%

設問「このイベントに対しての感想を教えてください」では、全体の62.1%の児童が「楽しかった。おもしろかった。」と感想の中で記述している。さらに詳細に見ていくと楽しかった要因を「いろいろな仕事があった。」

15.2%「たくさん体験できた。」13.3%と記述している。イベントの評価の高さは、様々な体験を味わうことが出来たことで楽しさを感じる事が出来たことに起因している。今回30ブースの出店が出来たことが高い評価に結びついたと考えられる。

以上の結果から次のような成果が認められたと考える。

- イベントに参加したことで「楽しかった。おもしろかった。」の感想が多く認められたことから、望ましい勤労観、職業観の基礎に繋がったと考えられる。
- 実際に仕事をしている人と触れあい、自分自身も体験することで、働くことの意義や目的の理解、自ら働こうとする意欲や態度を育むことができた。

6 地元企業・事業所の役割

(1) 各企業が子どもたちに果たした役割

前述したように、子どもたちは柏崎で仕事をしたいと考える割合が約90%と非常に高い。その理由として次の記述が見られた。「多くの職業が体験できた。」「各企業の方が、優しく丁寧に教えてくれた。」「地元企業に親しみが生まれた。」「本格的な仕事ができ役に立った。」このように児童は、参加していただいた企業との触れあいを通して柏崎を愛する心情や勤労観・職業観が育っていったと推察される。

参加企業にとっては、地域と一体となって子どもを育てていこうとする地域貢献に寄与し、企業イメージ向上に繋がった。

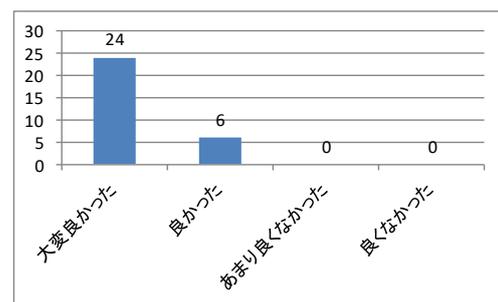
(2) 各企業の評価

グラフは、各企業が今回のイベントに参加しての感想を聞いたものである。

設問「今回のイベントに参加して良かったですか。」では、全ての企業から「大変良かった・良かった」の肯定的な評価をいただいている。

さらに、設問「この事業が子どもたちの未来に良い影響があるか。」では、ほとんどの企業・事業所から「良い影響がある。」と回答をいただいた。

また、企業、事業所の感想では「仕事の魅力を伝えることが出来た。」「多くの体験をしていただいて有意義だった。」と記載されていた。これらのことから、出店企業、事業所にとっても「お仕事体験塾」の活動が有意義であったといえる。



7 お仕事体験塾の成果と課題

(1) お仕事体験活動の成果

- お仕事体験活動を通じて働くことの楽しさや意義、目的を理解し望ましい勤労観、職業観の基礎に繋がった。
- お仕事体験活動で出会った様々な業種や人々との触れあいから郷土への愛着と誇りが育ち柏崎で仕事をしたいという願う意識が育った。
- お仕事体験活動で、地元の業種やそこに働く人々が一体となって、柏崎の未来を担う子どもたちを育てていこうとする意識の高まりが感じられた。

(2) 次年度に向けての課題

- 実行委員会の運営・組織
 - ・本年度、教育委員会「かしわざきこども大学」ドリームコース予算を活用して計画運営した。今後予算的な裏付けが必要である。
 - ・実行委員・アドバイザーの7名で運営したが、物品の借用や設営準備、後片付けを含めてスタッフの増員による組織的な取組が必要である。
 - ・ボランティアの依頼と運営の見通しについての周知徹底を図る。
- 出店企業、事業所について
 - ・子どもたちのニーズから、可能な限り多くの出店を働きかける必要がある。
 - ・当日の運営（予約方法・体験人数等）について、事前の説明を詳細に行う必要がある。
 - ・必要経費について、材料費等を手当てしなければならないことを感じた。
 - ・ブースの場所について事前打ち合わせが必要である。
- 当日の運営について
 - ・会場、時期、開始終了時刻、昼食時間等の検討が必要
 - ・予約方法の再検討と周知の徹底、待ち時間の解消、出店数の拡大と体験回数の増加

	主催	お仕事体験塾実行委員会	
実行委員長	若林 勝	(前比角小学校長)	
実行委員	田中 有人	(柏崎青年会議所前理事長)	
〃	岸 剛史	(柏崎青年会議所)	
〃	山田 智	(南中学校長)	
〃	柳 健太	(柏崎市社会福祉協議会)	
アドバイザー	土田 正秀	(柏崎市教育委員会 子ども課係長)	
〃	前澤佳奈子	(柏崎市教育委員会 子ども課)	

※ 私たち実行委員会では、「お仕事体験塾」の活動を通して、子どもたちが郷土に愛着と誇りをもち、働くことの意味を実感し、柏崎の未来を創るすばらしい人材となってくれることを願っています。

この報告書を基に、何らかの形で「小学生お仕事体験塾」を発展、進化、継続させていくことができればこの上ない幸せです。

共催 かしわざきこども大学 後援 柏崎市、柏崎市教育委員会
協力 各出店事業所（別表参照）、（一社）柏崎青年会議所、柏崎市社会福祉協議会、
一般ボランティア42名、教員スタッフ（敬称略：田尻小 酒井智恵美、
半田小 持田協子、高柳小 牧匡尚、柏崎翔陽中等教育学校 田中哲也）